コラム

“夢”を募集します

現在，日本の産業は大きい変換期を迎え，新しい秩序に向かつて再編成されつつあると言つてよいであろう．産業と密接に関係している学協会がこの影響を受けるのは当然のことである．特に鉄鋼協会は鉄鋼産業に大きく依存した学会であり，鉄鋼業界の動きが色濃く投影されている．すなわち，鉄鋼産業の合理化に伴い，協会にも合理化が要求され，鉄鋼産業の素材産業への指向と業種拡大に伴い，協会の取扱い分野も広がつてきている．これは当然の，あるいは止むを得ない帰結であろう．

ところで，我々は“成長”，“拡大”といつた言葉に弱い．特に企業では“成長しなければ衰退する”とのことで，売上金額の増加が絶えず要求されている．この論理はそのままその関係学会にも適用され，会員数や学会での発表件数，参加者数，論文数などの増加が要求されている．これも少なくとも従来は当然の要求であつたと思う．

しかし，このような“数量”の成長が永遠に続くことはあり得ない．どこかで頭打ちになるはずである．いや，もう既に頭打ちになつているのではなかろうか．企業はさておき，協会としては最早，数量の成長を追うのはあまり意味のないことではないのか，むしろ，これからは“質”の追求が必要なのではなかろうか．

では“質”を追求するにはどうしたら良いのか．

答えは当然のことながら優れた人材を集め，夢と資金を与え，競争させることである．いや，かつての鉄鋼産業がそうであつたように，夢と金があれば自然に人材は集まり，質は向上するはずである．

つまり，鉄鋼協会の将来はまずその夢にかかつていると言えよう．では協会は夢を与えているであろうか．あるいは与えることができるであろうか．溶融還元，革新的連続鋳造法，半溶融凝固法，急速凝固法，電磁気冶金，超微細組織，高純度鋼等々……　これらは若い人達（特に学生達）に本当に夢を与えているであろうか．もつとすばらしい夢はないであろうか．

会員諸兄の“夢”の応募を期待します．記名でも無記名でもかまいません．ぜひ鉄鋼協会編集課に下記の要領でお送り下さい．

（大阪大学工学部　大中逸雄）

- 記事の種類：コラム
- 記事の量：所定の原稿用紙（450字詰）3枚以内
- 誌上匿名，ペンネームは自由ですが，原稿送付の際は，連絡者，連絡先を明記して下さい．
- なお，採用された記事については薄謝をさしあげます．

送付先　〒100　千代田区大手町 1-9-4
経団連会館3階
(社)日本鉄鋼協会　編集課
コラム“夢”係

編集後記

「鉄と鋼」9月号をお届けします．本号に掲載されている論文・技術報告の多くは，昨年9月ごろ受付けられており，従つて，受付から掲載までほぼ1年掛かつたことになります．この間，論文の審査だけでなく，審査済で掲載待ちの期間もかなりあり，編集委員長からは，掲載のために審査が追われるような状態にして，できるだけ早く掲載されるよう努力しようと言われています．

編集委員は，製銑・製鋼・加工・材料グループなどの専門分野別に担当していますが，気になることは，私が担当している加工グループ（熱処理・溶接・計測・制御などを含む）の論文・技術報告の件数が，鉄鋼製品をあずかる重要な分野であるにもかかわらず極めて少ないことです．

鉄と鋼（昭和62年）索引で調べますと，総件数373件中加工分野の論文等が42件となつていますが，この内かなりのものが鉄鋼材料に関わりの大きい論文で，加工グループの委員が担当した論文は42件の半分にもなりません．具体的な統計データは持つていませんが，鉄鋼業で加工分野に携わる研究者・技術者の数は，製銑・製鋼・材料などの分野に比べて少なくはないと思われます．その証拠に，講演大会の発表件数は昨年1年間で，1606件中220件（13.7%）と決して引けを取りません．

「鉄と鋼」投稿規程には投稿区分として，論文（著者の独創になる学術および技術の成果を記述し，十分考察がなされたもの）だけでなく，技術報告（独創的な鉄鋼製造技術，設備技術，管理技術および材料技術や新しい測定データなどを記したもの）があります．その他に寄書という簡便な投稿区分もあります．

講演大会発表論文に肉付けすれば，すぐれた技術報告になるものがたくさんあります．会員諸氏がお気軽に投稿されるようお待ちしております．　(K. O.)